

ム有無 創刊号

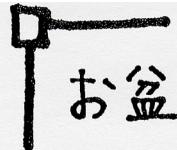
ム有無



真宗大谷派
源通寺

慶長15年(1610年)小笠原 長隆により、外神田の東本願寺内に源通寺創建。信濃国の深志城(長野県松本城)の城主である小笠原長時(1552-1610)の長子である。長隆は57歳のとき、本願寺より阿弥陀如来を下附され、101歳で往生するまで布教に従事し、庶民の尊崇厚い人である。幾たびの移転を重ね、明治41年にこの辺(中野区上高田)に移る。

沿革



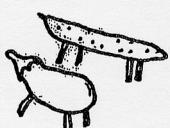
お盆

お盆とは「盂蘭盆」^{うらぼん}といい、梵語の“ウランバナ”を音写したもので
「倒懸」^{とうけん}（木に逆さまに吊るされたような苦しみ）と読みます。

お盆の行事は、『仏説盂蘭盆經』というお経に説かれている釈尊のお弟子
目連尊者の物語に由来するものです。



世間では、お盆の期間（7/13～16、旧盆 8/13～16）亡くなれた
方の魂が家に帰ってくる、という考えが一般的になっています。



亡くなれた方の魂がはやく家に帰ってくられるように、乗り物として
キュウリで馬を作り、ゆっくり戻ってきて行くようにとナスで
牛を作ったり、帰ってくる土場所をわざりやすくするために、
提灯に明かりを灯し目印をたてるようです。

人間の思いが“ものすごく反映されているように思えてしまうのは私だけ？



浄土真宗では、亡くなられた方は諸仏となられ、阿弥陀様の
お仕事の手伝いをなさっています。それは、私たちが常に煩惱に
突き動かされており、その欲望が原因となり、悩んだり、苦しんだりして
いることに気付いてもらおうと、常に呼びかけてくれているわけです。
なので、お盆だからと特にすることはありません。いつも通り、お内仏を
掃除をして、きれいな花をおかざりしましょう。

親鸞聖人は、私たちの人生を「煩惱具足」^{ぼんのうぐそく}と仰いました。

「煩惱具足」とは、煩惱にまみれて生きる僕ではない、ということです。

そして、そのような私たちの救われる道は「ただひたすら阿弥陀様の
本願を信じて念仏を申すことだけです」と仰ったのです。



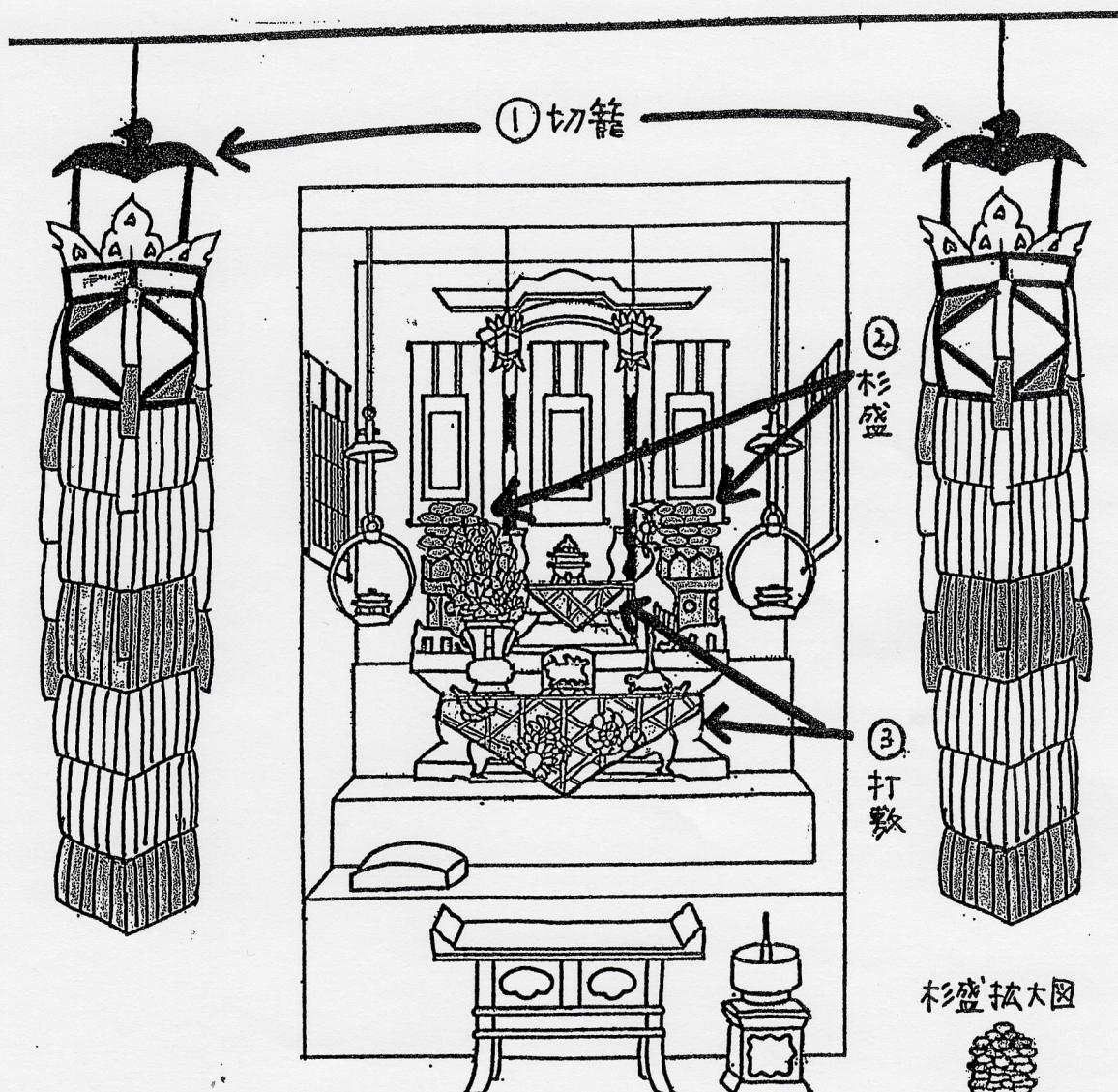
お盆も、お彼岸も、日常も、煩惱に振り回されている
私がいる… そのことに気がつく、又はそのことを思う
一つのチャンスが、私たち真宗門徒のお盆なので
はないのでしょうか。

浄土真宗 お内仏(お仏壇)の莊嚴

お盆の前日、お内仏の掃除、仏具類のお磨きを済ませ、生花をおかげりします。そして、代々の法名をおかけします。

(過去中古の方は、開かずのまま台に置くだけ大丈夫です。)

ここまでよろしいのですが、他にご用意するならば以下の3点です。



上部が八角形の火袋になっており、

①切籠(きりに) — 下部に切紙の屋をつけた浴にいう盆灯籠です。

②杉盛(すぎもり) — 白餅を杉形に盛ります。

③打敷(うちしき) — 上卓と前卓にかけます。



あとがさき



こんにちは!副住職です!皆様、体調は崩されていないですか?

今年の太陽は、やる気も違いますね!

去年より19日も早く梅雨前線を吹き飛ばして、いきなり本気の猛暑日!墓石で日焼けできそうです。。。

「こうなれば念仏よりも水分補給じゃ!」なんて言わずに、どちらも大切にして頂きたい。

とまあ余談はさておき...

5月11日に源通寺で行いました私と准坊守の披露宴。

お忙しい中、本当にたくさんの方が駆けつけてください、また、当日お越しになれた方ももたくさんのお祝いを頂きました。本当にありがとうございます。

当日は、想像を遥かに超えた光景に頭の中が空っぽ。。。

ではなくて、真白になってしまいましたが、皆様から頂いたたくさんの温かいお言葉で、より一層、心が引き締まりました。今後も、日々皆様のお力添えを感じ、副住職としてできる限りの法務を、また皆様と同様に門徒の一人として、「南無阿弥陀仏」というお念仏を通して、日々のご縁を大切に暮らしていきたいなあと思いまので、今後とも御指導を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

副住職 釋祐翔

はじめまして!この度、准坊守になりました 小笠原 沙穂哉です。

東京の下町で育ち、好きな食べ物はケーキやチュコレートです。毎日甘いものを食べています。

おすすめのお菓子がありましたら、ぜひ教えてください。

まだわからないことが多く、皆様にご迷惑をお掛けすることもあるかもしれませんので

日々成長できたら、と思っております。今後ともご指導を賜りますよう、宣しくお願ひ申し上げます。

タイトル『ウム有無』とは... むぎかしい仏教のことや仏語を「ウムウム」と
うなづいていただけのようにまとめた冊子です。

仏教用語 存在することと存在しないこと。

主に形あるものと形ないもの。(有形、無形)

題字

15代住職 釋祐純

発行日 平成25年 7月1日

発行元 真宗大谷派 源通寺

住所 〒164-0002

東京都中野区上高田1-2-7

TEL 03(3371)8817

FAX 03(3371)8815